

令和8年度（2026年度）
熊本県人権関係登録講師一覧（講師別）

講師氏名（五十音順） （1）人権課題 （2）講演テーマ （3）略歴等 （4）メッセージ

1 泉 潤(いずみ じゅん)

- (1)ハンセン病回復者及びその家族の人権
- (2)「ハンセン病回復者及びその家族の人権」
- (3)熊本日日新聞社論説顧問兼新聞博物館館長、熊本県「無らい県運動」検証委員会（2011～2014年度）、
著書「検証ハンセン病史」

2 井上 佳子(いのうえ けいこ)

- (1)ハンセン病回復者及びその家族の人権、人権全般
- (2)「メディアと人権」、「映像ジャーナリズムの可能性と危うさ」、
「『個』とジャーナリズム」、「ハンセン病回復者及びその家族の人権」
「ハンセン病とコロナの類似点」
- (3)ノンフィクション作家、元長崎県立大学国際社会学部教授、元 RKK ディレクター・プロデューサー
著書「孤高の桜～ハンセン病を生き残った人たち～」、「壁のない風景～ハンセン病を生きる～」、「三池炭鉱・月の記憶」、「戦地巡歴～我が祖父の声を聴く」など

3 今坂 洋志(いまさか ひろし)

- (1)性的指向・性自認に関する人権、性と人権
- (2)「性的マイノリティと人権」、「性的マイノリティへの支援のために学校・職場・地域で必要なこと」、「性的指向・性自認等、性の多様性を理解する」、「性の相談で必要なこと」、「家庭・学校における性教育」、「性差別と人権」、「性非行・性の問題行動への対応の在り方」
- (3)熊本県性教育研究会会長、ともに拓くLGBTQ+の会くまもと代表
- (4)性の人権については、「人間の性」について正しく知ることから理解が始まります。

4 岩谷 美代子(いわたに みよこ)

- (1)こどもの人権
- (2)「親に連れられて来日した外国人の子どもたちの日本語教育・進路保障・仲間づくりについて」
- (3)NPO 法人外国から来た子ども支援ネットくまもと顧問
- (4)親の仕事や結婚で来日する外国ルーツの子ども達が急増しています。日本語が分からないまま小中学校で過ごす子どもたちは大変です。日本語をどのように学んでいくのか、熊本県の日本語指導体制は整っているのか。言葉、文化、心の壁にぶつかっている子どもたちの生の声とともに、現状をお話しします。

5 上村 眞智子(うえむら まちこ)

- (1) ビジネスと人権、ハラスメント、人権全般
- (2) 中学生向け人権教室「でーと DV ってなに?」、企業向け人権啓発セミナー「ハラスメントの理解と対策」、大学職員向け「～沈黙しない教員であるために～他人事を自分事として捉えるマインド形成(人権尊重)とコミュニケーション論」
- (3) キャリアデザイン工房(有)オフィス UEMURA 代表、非営利活動法人日本キャリア開発協会 CDA-J. Master、国家資格キャリアコンサルタント、国家資格2級キャリアコンサルティング技能士、Diversity Communication Instructor(男女脳差によるダイバーシティ・コミュニケーション講座 インストラクター)、アンガーマネジメントファシリテーター、AM パワーハラスメント防止アドバイザー、日本キャリアデザイン学会会員、熊本人権擁護委員協議会委員、男女共同参画委員会委員長
- (4) 刃物で傷つけられた傷は誰の目にも見えますが、言葉や行為によって傷ついた心の痛みは、当事者にしか分かりません。しかも、傷つけた側や周囲には、その自覚が乏しいことも少なくありません。だから様々な出来事を「他人事」ではなく「自分事」として捉える視点が大切です。研修や講演を通して共に考え、語り合いながら、相手の存在と人権を尊重できる心を育んでいきましょう。その一歩が人権を大切にできる社会へと繋がります。

6 大里 耕守(おおさと やすもり)

- (1) 部落差別(同和問題)
- (2) 「部落差別解消推進法と人権」、「一緒につくろう、誰もが輝く人権のまち・熊本を！」
- (3) 元南関町教育長、元同和教育推進教員、元公立小・中学校長、
元熊本県人権センター事業検討委員会委員、元南関町地域人権教育指導員
- (4) 国際化が進み、日本人の歴史と文化や戦争をのりこえた人道主義の進展により、国民性の理解や実践力への評価が高まってきました。にも係らず、昨今の国際情勢は地球の平和を真に希求する意識より、排他的な紛争や闘争に向かいつつあり、更なる人権国高揚、課題克服への学びが大切な今日です。その根底に、日本の歴史の発展途上で生産された部落差別の存在と現実が継続してきたことをひもときます。

7 小野 友道(おの とみち)

- (1) ハンセン病回復者及びその家族の人権、感染症・難病等をめぐる人権
- (2) 「ハンセン病回復者及びその家族の人権」、「新型コロナウイルス感染症と人権～ハンセン病から学び、未来に向けて私たちがめざすこと～」
- (3) 熊本大学顧問・名誉教授、熊本保健科学大学名誉教授、くまもと南部広域病院顧問
- (4) ハンセン病の歴史と現在を知って頂きたいのです。知らないで偏見をもつことが悲しいのです。

8 片山 寛之(かたやま ひろゆき)

- (1) ビジネスと人権、ハラスメント
- (2) 中小企業が取り組むべき“人権配慮”の第一歩、職場におけるハラスメント
- (3) 社会保険労務士。会社員時代に企業が抱える「ヒト」に関する課題を解決するためには、労働者側からの一方的な要求、逆に経営者側からの一方的な要求では何も解決せず、お互いに不幸になるだけだと思い、双方の立場や法律を理解したいという思いが生まれたため、社労士を目指しました。現在は熊本県を拠点に活動しています。建設業、製造業、医療法人、サービス業など幅広い中小企業の人事労務顧問を担当。熊本県働き方改革推進支援センター副センター長及び派遣専門家、BHR 推進社労士、SDGs 登録支援、ブライツ企業登録支援
- (4) 「人を大切にできる会社が、これから選ばれる会社です」働きやすい環境づくりは、人材定着にも生産性向上にもつながります。身近なところから始められる人権配慮の第一歩を一緒に考えてみませんか？

9 川内 恵里(かわうち えり)

- (1) ハラスメント(職場・学校)、子どもの人権、メンタルヘルス
- (2) ハラスメント防止研修を中心課題として、「アンガーマネジメントと心の整え方」、「心が軽くなるチーム(職場・学校)づくり」、「メンタルを育てる“問い”の魔法」、「AI時代に必要な“やさしさ力”」
- (3) 社労士として26年。職場や学校でのハラスメント防止、人材育成、メンタルサポートに取り組む。子どもの不登校をきっかけに、心理学やコミュニケーション理論を学び、「心に届く関わり」や「違いを理解し個性を活かす関わり」の大切さを伝える講師として活動中。
- (4) ～正しさよりも、まず“心にそっと寄り添うこと”から～
子どもも大人も、自分の力で人生を歩み、幸せに生きていくためには、安心できる関係があってこそ、自分らしく前に進むことができます。まずは、違いを知ることから。心がふっと軽くなるような対話を、職場・学校に関わるみなさんと一緒に広げていけたらうれしいです。やさしさがあふれる職場や学校づくりを、心をこめてお手伝いします。

10 川本 愛一郎(かわもと あいichirou)

- (1) 水俣病をめぐる人権
- (2) 水俣病患者とその家族の人権、水俣病患者家族としての体験
- (3) 1958 生まれ
2004 年 有限会社リハシップあい設立(介護事業、訪問看護、児童発達支援事業など)現在まで
2008 年 水俣病資料館語り部 現在まで
- (4) 何故、差別や偏見があるのか。自分の「何故？」を大切にしてください。

11 神田 みゆき(かんだ みゆき)

- (1)人権全般
- (2)「人権全般」、「人権と防災について」、「SDGs と人権」、「男女共同参画について」、「環境問題と人権」、「学校における人権教育」等
- (3)一般社団法人 Universe Quest 代表理事として、環境教育、ESD、SDGs、人権・ウェルビーイング教育などの分野で、学校・自治体・企業を対象とした講演や研修、教材開発を行うとともに、現在も非常勤講師として教育現場にも継続して関わっている。
くまもと SDGs アワード 未来づくり部門 個人入賞。
- (4)育休中に経験した熊本地震の支援活動を通じ、人と人とのつながりの尊さを実感しました。SDGs が掲げる「誰ひとり取り残さない」という言葉の中の「誰ひとり」には、世界中のあらゆる命という意味がありますが、そこには「自分自身」も含まれています。人権とは、誰もが幸せに生きるための権利です。まずは自分を大切にすることから始め、一人ひとりがその幸せを実感できる社会のあり方について、皆様と共に考えたいと思っています。

12 熊野 たまみ(くまの たまみ)

- (1)人権全般
- (2)「人権ワークショップ」、「ダイバーシティ導入研修」、「ワーク・ライフ・バランス研修」、「女性活躍推進研修」、「マネジメント・ファシリテーター研修」、「コミュニケーション・プロセスデザイン研修」、「ファシリテーション研修」、「ビジョン共有のためのビジュアルミーティング研修」、「協働に向けた相互理解研修」、「アサーティブ・ファシリテーション研修」、「女性活躍推進研修」、「アンコンシャス・バイアス研修」、「“SDGs de 地方創生”の研修」、「SDGs 2030 研修」、「アンガーマネジメント研修」、「研修の作り方」、「社会教育と地域連携」、「木育ワークショップ」他
- (3)株式会社adapt next. 代表
- (4)毎日の暮らしやコミュニケーションにあるバイアスを、みんなで楽しく気づきあう時間にしましょう。

13 後藤 忠久(ごとう ただひさ)

- (1)部落差別(同和問題)、人権全般
- (2)「くらしと人権」、「人権のまちづくり」
- (3)総務省行政相談委員、山鹿市社会福祉協議会心配ごと相談所一般相談員、元熊本県立大学・崇城大学非常勤講師、元熊本県教育庁社会教育課教育審議員、元公立小学校長

14 紫藤 千子(しとう ゆきこ)

- (1)高齢者の人権、こどもの人権
- (2)「高齢者の権利擁護」、「高齢者の虐待防止」「権利擁護 意思決定支援」
- (3)社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、精神保健福祉士

15 清水 真夕(しみず まゆ)

- (1)犯罪被害者等の人権、インターネットによる人権侵害
- (2)「命の大切さ」、「犯罪被害者支援の必要性」
- (3)2011年3月3日、殺人事件により当時3歳の娘をなくす。犯罪被害者遺族である子供たちの子育てをしながら被害者支援の活動を始める。
子供たちが全員独り立ちしたタイミングで命の大切さの講演を始め、現在学校や自治体などで講演をしている。
NPO 法人「coffee aid 2021」理事
- (4)命の大切さと犯罪被害者支援についてお話しします。重いテーマではありますが、悲しさを伝えるのではなく、これからよりよく生きるためのヒントとして受け取っていただけたら嬉しいです。一人ひとりの思いやりや行動が、誰かの支えにつながることを感じてもらえればと思います。

16 杉本 肇(すぎもと はじめ)

- (1)水俣病をめぐる人権
- (2)「水俣病患者家族に生まれて」
- (3)水俣市立水俣病資料館語り部

17 杉山 友香(すぎやま ゆか)

- (1)ハラスメント、アンコンシャス・バイアス
- (2)「職場におけるハラスメント防止研修」、「ハラスメントとは？～アンコンシャス・バイアスから考える～」
- (3)杉山友香社会保険労務士事務所
- (4)近年、職場や学校、社会全体でハラスメント問題への関心が高まっており、様々な多様性を尊重し、あらゆる人々が快適に過ごせる学校生活や職場をつくるための取り組みが求められます。アンコンシャス・バイアスからハラスメントの原因につながるということを事例に基づいたセッションやミニワークを取り入れながらお話してまいります。各種ハラスメントに対する正しい理解をして、働きやすい職場作りを目指しましょう。

18 高橋 恵子(たかはし けいこ)

- (1)高齢者の人権
- (2)「高齢者の人権」、「地域で認知症の人を支えること」
- (3)グループホームせせらぎ代表、キャラバンメイト、認知症ケア専門士(上級)、
認知症介護指導者、チームオレンジコーディネーター
- (4)地域で認知症の方を支える活動を行っています。地域の皆さんやご家族、介護職員向けに、お話しさせていただいています。

19 竹下 元子(たけした もとこ)

- (1)女性の人権、性的指向・性自認に関する人権、ハラスメント、DV 被害、加害、性暴力
- (2)「女性の人権」、「パワハラ、セクハラ、マタハラ」、「DV」、「親子」、「性暴力」、「DV加害者更生プログラム」、「LGBTQAX」
- (3)NPO法人ウィメンズ・カウンセリングルーム熊本代表、
菊池市男女共同参画専門委員、母子自立支援施設カウンセラー、
熊本県弁護士会セクシュアルハラスメント調査委員会委員、
熊本大学他非常勤講師、配偶者からの暴力被害者支援アドバイザー(内閣府)

20 戸田 俊文(とだ としふみ)

- (1)こどもの人権、インターネットによる人権侵害
- (2)「豊かな人権感覚を持ってネット社会に参画するために」、「人間尊重を基盤にしてネット社会を賢く豊かに生きる子どもたちの育成」
- (3) 真和中学・高等学校情報専門監、元公立小学校長、
2016年度情報教育功労者文部科学大臣表彰
- (4)こどもたちの健やかな成長のために、共に考えていければありがたいです。

21 中 修一(なか しゅういち)

- (1)ハンセン病回復者及びその家族の人権
- (2)「ハンセン病回復者及びその家族の人権」
- (3)菊池恵楓園退所者
- (4)全ての人が安心して生きることのできる社会の構築を目指しましょう。

22 中川 有紀(なかがわ ありとし)

- (1)こどもの人権、部落差別(同和問題)
- (2)「人権全般・人権教育」、「学校・家庭・地域社会での人権教育」
- (3)元益城町教育委員会地域学校協働活動推進員、益城町教育委員会放課後こども教室ディネーター、元熊本県教育庁社会教育課課長補佐、元公立小学校長、元益城町教育委員会社会教育指導員、元学校支援アドバイザー
- (4)人権課題を我が事として受けとめ、課題解決に向けて自分にできることを行動に移しましょう。

23 波口 恵美子(なみぐち えみこ)

- (1)女性の人権、こどもの人権、ハラスメント
- (2)「人と人が安心してつながるために～境界線から考える性暴力～」、「私の人生の舵をとる～女性の生きにくさの背景にあるもの～」、「こころとからだの安心・安全」、「知っていれば、慌てない～子どもへの性暴力と保育園での対応の基本～」
- (3)社会福祉士、人権擁護委員
- (4)いじめやDV、ハラスメントなどの暴力の構造や本質をまずは理解した上で暴力のない安全な関係を作っていく為の考え方や行動について共に考えていきます。人と人の安全、安心な関係を作っていくために、学びの時間を共にできたらうれしいです。

24 西 章男(にし あきお)

- (1)ハンセン病回復者及びその家族の人権、支援者の支援
- (2)『私たちのハンセン病問題～わたしたちにできること～』、『支援者の支援』
- (3)精神科病院にて看護助手・准看護師として勤務した後、在宅介護支援センターにてソーシャルワーカー・介護支援専門員として従事する傍ら、2004年大分大学大学院福祉社会科学研究科を修了。2005年より九州ルーテル学院大学に勤務。2020年4月より熊本県ハンセン病問題相談・支援センター(りんどう相談支援センター)の相談員を兼務
社会福祉士・精神保健福祉士・准看護師・防災士
- (4)熊本県には、ハンセン病問題に関する悲しい歴史があります。一方で、その過ちが人権侵害であったことを裁判を通して問い直し、声を上げてきた地でもあります。ハンセン問題から学び、自分たちにできることを一緒に考えていきます。また、支援者(自分)自身の心身の健康が人権を大切にすることにつながることに目も向け、他者を大切にするあり方についても考えていきます。

25 野尻 千穂子(のじり ちほこ)

- (1)女性の人権、こどもの人権、障がい者の人権
- (2)「障がい者の人権と命の重さ」、「命の花を咲かせよう」、「苦労の数だけ愛の人になろう」
- (3)ヒューマンネットワーク熊本会員、元熊本県いのちの会代表
- (4)命をもらって生きるとは時として一人では生きていけないこともあります。私は12歳で胸から下のマヒの体になりました。悩んだ年月もありました。まず家族が「お前はお前のままで良いんだよ」それが生きる希望と努力する私へと変わりました。

26 秦 竜也(はた たつや)

- (1)部落差別(同和問題)
- (2)「部落差別(同和問題)の現状と課題」、「教育に期待すること」、「想いは必ず伝わる」
- (3)部落解放同盟熊本県連合会書記長

27 藤井 誠(ふじい まこと)

- (1)人権全般(企業と人権、人権ワークショップ)、ハラスメント
- (2)「人権全般・人権教育」、「人権ワークショップ」、「企業と人権」
- (3)第三期・第四期文部科学省中央教育審議会専門委員、
一般社団法人障がい者起業・就労支援協会代表理事、教育プロデューサー、
一般社団法人 HR Japan 代表理事
- (4)人権教育で大切なことは、学びで終わることなく、学んだことが人間的成長、地域の発展、ビジネスの成長につながる大切です。

28 真嶋 浩(ましま ひろし)

- (1)犯罪被害者等の人権
- (2)「犯罪被害者への理解と支援の必要性」
- (3)前公益社団法人くまもと被害者支援センター専務理事、
元公益社団法人全国被害者支援ネットワーク理事、元熊本県警察学校長、
元犯罪被害者支援室長

29 松川 由美(まつかわ ゆみ)

- (1)インターネットによる人権侵害
- (2)「ネット社会に潜む人権問題」、「ネット社会における子どもたちの現状と保護者の役割」、「ネットトラブルに巻きこまれないために」
- (3)モバイル・ネットワーク研究所代表
- (4)スマホや SNS が身近になった今、私たちはいつでも情報発信をし、共有できる時代を生きています。ネットの世界でもお互いを尊重しあうことが大切です。誹謗中傷、プライバシー侵害、デマの拡散など、気づかれないうちに加害者にも被害者にもならないためにはどうすればいいのか、それぞれの立場で、一緒に考えてみませんか。

30 宮田 鉄雄(みやた てつお)

- (1)部落差別(同和問題)
- (2)「部落差別(同和問題)の現状と課題」、「教育に期待すること」、「未来の子どもたちのために」
- (3)全日本同和会九州連合会副会長、全日本同和会熊本県連合会会長

31 宮本 儀子(みやもと よしこ)

- (1)こどもの人権
- (2)「子どもの人権」、「天使の命 繋がって」
- (3)熊本エンジェルの会、「突然」子どもを亡くした家族の会代表
- (4)大切な人を亡くし、日常を過ごせることがどんなにありがたいかを亡くなった人から学び、人との出逢いや繋がりをつくってくれた。そんな私の経験を伝えたい。

32 村上 奈美(むらかみ なみ)

- (1)インターネットによる人権侵害
- (2)「保護者・教育者として知っておきたいデジタルネイティブ世代のコミュニケーション」「加害者・被害者にならず SNS を上手に使おう」「想像力と判断力と知識でスマホ・ネットを安全に使おう」
- (3)有限会社マリオネット 代表取締役
- (4)1995 年(当時中学生)のときから様々なインターネットの人権侵害、トラブル事例を見てきました。その経験を今の子どもたちや大人に伝えて皆が思いやりを持って技術を正しく使用するスキルの育成を目指しています。

33 八木 浩光(やぎ ひろみつ)

- (1)外国人の人権
- (2)「外国人の人権」、「外国人と共に創る共生社会」など
- (3)大学卒業後、専門商社へ入社し、途中大学・大学院で学ぶ。1997年4月熊本市国際交流振興事業団へ入職。企画事業、総務・経理業務を歴任。2011年同事業団事務局長へ就任。2022年同事業団を退職。同年7月に同事業団常務理事へ就任。現在に至る。
- (4)人口減少・少子高齢化の進展やTSMCの進出など、外国人住民が急増する熊本県内の状況における、多文化共生のまちづくりを推進する意義と重要性について考えます。

34 柳原 志保(やなぎはら しほ)

- (1)災害と人権
- (2)「いつもともしもの安心術」「みんなに優しい防災」、「もしもに備えるいつも」など
- (3)宮城県多賀城市出身。東日本大震災で被災後、移住先の熊本で熊本地震や令和2年7月豪雨を経験。「歌う防災士しほママ」のネーミングで、誰もが取り組めるわかりやすい講話は全国に拡がり、テレビなどメディア出演も多数。自身がシングルマザーのため、ひとり親家庭支援や地域の居場所づくりにも尽力している。
- (4)子どもからシニアまで、年齢・立場などに合わせて内容を工夫し、歌や体操、ゲームなどを取り入れるなど、体験型でわかりやすく伝えることを心がけています。3度の大地震の体験談に加え、能登半島地震など近年の災害の課題、教訓から何ができるかを考えてみませんか？

35 山下 順子(やました じゅんこ)

- (1)こどもの人権、障がい者の人権
- (2)「地域の中で、ともに生きる」、「出会いに感謝して」
- (3)認定NPO法人とら太の会理事長

36 吉永 理巳子(よしなが りみこ)

- (1)水俣病をめぐる人権
- (2)水俣病患者とその家族の人権
水俣病患者家族としての体験
- (3)一般社団法人水俣病を語り継ぐ会 代表理事
水俣市立水俣病資料館 語り部
- (4)水俣病で犠牲になった、あらゆる生命の声なきメッセージを共に考えましょう。

37 吉松 裕藏(よしまつ ゆうぞう)

- (1)ホームレスの人権
- (2)「ひとりじゃないよ～ホームレスの方々への支援を通して学んだこと～」
- (3)NPO法人熊本ホームレス自立支援の会元事務局長、
NPO法人でんでん虫の会代表、
社会福祉士、精神保健福祉士
- (4)孤立・孤独の問題が深刻化する中、どのように人と人とのつながりを作っていけるか、共に考えましょう。